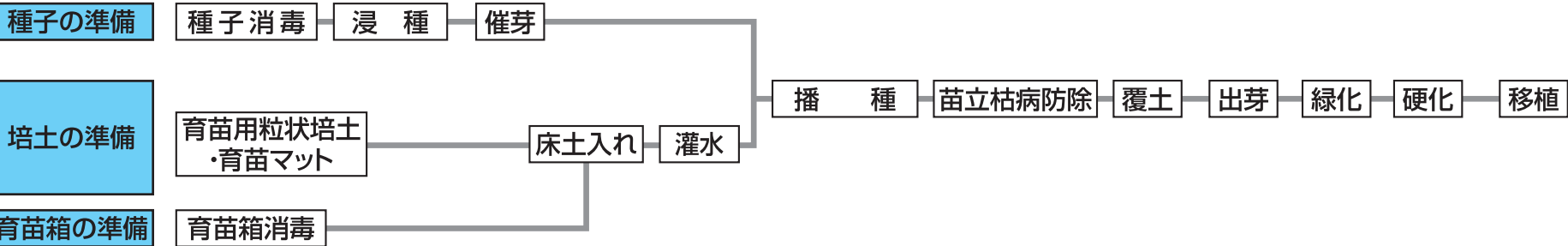


水稲育苗のしおり

発行:香川県農業協同組合
監修:香川 県

育苗の手順

播種期の目安（早期栽培:田植えの25日～30日前）
（短期・普通期栽培:田植えの18日～20日前）



種子の準備

播種量は、育苗箱1箱あたり乾粒150g、催芽粒180gを基準に種子の準備をします。

◎育苗期間中のいもち病発生防止のためにも、1箱あたり播種量は、適正量にしましょう。

注：自家採種の場合は、比重1.13の塩水（水100当たり食塩2kg程度）で充実した粒を選別します。

種子消毒

◎いもち病などの種子伝染性病害に罹病した粒を使用すると、伝染源となり大きな被害に繋がることがあります。必ず種子消毒を行いまししょう。

- 1 消毒薬液は早見表を参考に
テクリードCフロアブル200倍
とスミチオン乳剤1000倍の混
合薬液を作ります。

- 2 消毒は24時間、液温は15℃～
20℃が適温です。温度計で確認
しましょう。

注：種子消毒後は、水洗いせずにそのまま浸種し、24時間は水を取り替えずかくはんしない。
注：種子消毒の廃液は、自然環境に対し影響を及ぼさないよう、直接河川などに流さず、
中和、加水分解、酸化、還元その他の方法により適切に処理します。

早見表

対象病害虫名	種もみの量	5kg	10kg
	水の量	10ℓ	20ℓ
ばか苗病 こいもち病 いもち病 もみ枯病 細菌病	テクリードC フロアブルの薬量	50ml	100ml
心枯線虫病	スミチオン乳剤 の薬量	10ml	20ml

浸種

◎種もみを水に浸し、十分吸水させて発芽揃いを良くします。 浸種日数の目安
また、籾殻の中にある発芽阻害物質を洗い出して除きます。

- 1 種もみの2倍以上の水に4～7日間程度浸漬します。
水温は10℃以上20℃以下とし、右表を目安とします。

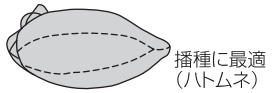
（コシヒカリ・ヒノヒカリは発芽しにくいので1～2日長くします。）

- 2 種子消毒後、最初の24時間は水を取り替えず、それ以後は、毎日水を取り替えます。

催芽

◎出芽を揃えるため、ハトムネ程度に芽出しします。

- 1 浸漬したもみを乾かさないようにムシロ等でくみ、種もみ温度30℃～32℃となる
暖かい場所で半日～1日置き、ハトムネ程度の
芽（1mm位）にします。
- 2 芽が伸びすぎると播種時に芽が折れて出芽ムラを
起こします。



出芽の方法

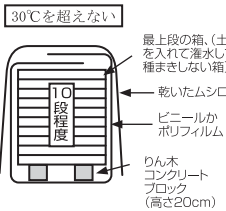
積重ね出芽の場合

- 1 水平で暖かい場所を選び10段程度積み重ねます。
横に並べる場合は5cm程度の間隔をあけて積み重ねます。
全体をビニールかポリフィルムで包み、さらにムシロで
覆います。（出芽適温は30℃で、あまり高く積むと上下
の出芽差が大きくなります。）

- 2 早期栽培は、温度を保つためビニールハウス内に設置
するか、電熱育苗器を使用します。

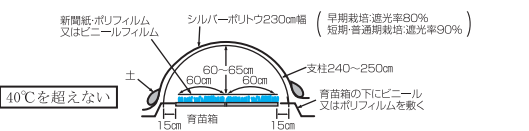
- 3 短期・普通期栽培は、30℃以上の高温になると白カビ
などが発生しやすいので、日中高温時にはムシロ等で覆
い、温度の上昇を防ぎます。

- 4 播種後2～3日（早期栽培
では4～6日）で芽が1～
1.5cmになれば、緑化に移し
ます。（緑化に出るのが遅れ、
芽が伸びすぎると、徒長苗に
なりやすいので注意します。）



平置き出芽（緑化を兼ねる）の場合

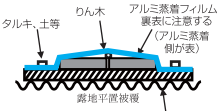
- 1 日当たりがよく水平で灌排水の管理がしやすい場所を選び
ます。
- 2 肩幅180cm程度の浅い溝の畝をつくり、その上にポリフィ
ルム等を敷き育苗箱を2列に並べます。（早期栽培はハウス内
での設置が望ましい。）
- 3 並べた育苗箱を直接新聞紙や不織布等で覆い、軽く水をか
けて湿らせてます。
- 4 高さ60cm程度のトンネルを作り、水稻用シルバーポリト
ウで被覆し、密閉状態とします。



- 5 播種後2～3日（早期栽培では4～6日）で芽が1～1.5cm
程度の時、一度除覆して新聞紙等を除き上からかん水し、持
ち上がった覆土を落ち着かせ、再び被覆します。
- 6 出芽後、トンネル内の温度が40℃以上になる場合はトン
ネルの両サイドを開けて換気します。
- 7 草丈が早期栽培では6～7cm、普通期栽培では4～5cmで
被覆を取り除き硬化に移します。（除去が遅れると徒長苗に
なりやすいので注意します。）

アルミ蒸着フィルムのベタ掛け出芽の場合

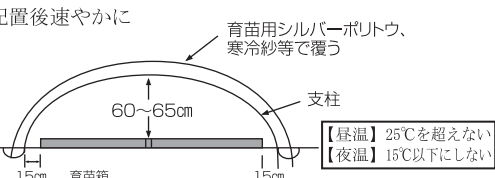
- 1 置床面は、日当たりの良い均平で強い風の当たらない、排水の
良い場所に、置床面が乾いている時は軽く散水し湿りを与えます。
- 2 排水の悪い場所では溝を切って、上げた溝土で置床を作ります。
雨水などが溜まらないように排水を良くし、苗箱を平らに並べ、
アルミ蒸着フィルムをベタ掛けします（裂けやすいので、取扱
いに注意するとともに、裏表を間違えないよう注意します。）
- 3 タルキや土でアルミ蒸着フィルムの端をしっかりと押さえて密
閉し、雨水がたまらないように、中央部分に「りん木」を入
れて、勾配をつけておきます。（押さえがゆるく風をはらむと床
土が乾き、出芽が不揃いになることがあるので注意します。）
- 4 苗箱がまとまり次第早くアルミ蒸
着フィルムを被覆します。（覆土灌
水した苗箱を放置して置くと、好天
の日には土が乾いて、根上りの
原因となるので注意します。）
- 5 5～7日後出芽が始まり緑化終了まで、
（苗丈4～7cm程度）アルミ蒸着フィルムを被覆しておきます。
- 6 緑化が終われば、被覆を除去して硬化に移します。被覆除去後
の灌水は、表面が若干乾いた状態で出来るだけ温かい水を使用し
ます。



緑化（積重ね出芽の場合）・硬化作業の方法

緑化

- 1 緑化は、第1～2日目は8000～10000ルクス（日陰・薄曇り）となるように、育苗箱配置後速やかに
シルバーポリトウや寒冷紗で覆います。（温度は、昼間は20～25℃、夜間は15～20℃）
- 2 灌水を行う場合は、土壌の乾き具合を確認して行います。
- 3 早播き、山間部で夜間冷えるときは、ムシロ等をかけ保温します。
- 4 2～3日して草丈が早期栽培では6～7cm、普通期栽培では4～5cmになれば被覆資
材を取り除き硬化に移します。（除去が遅れると徒長苗になりやすいので注意します。）



硬化

- 1 緑化が終われば、被覆を除いて日光を十分に当てます。
- 2 灌水は土壌の水分の状態を確認して乾き過ぎ、湿り過ぎとならないよう1日1～2回適宜行います。

＜プール育苗の場合＞

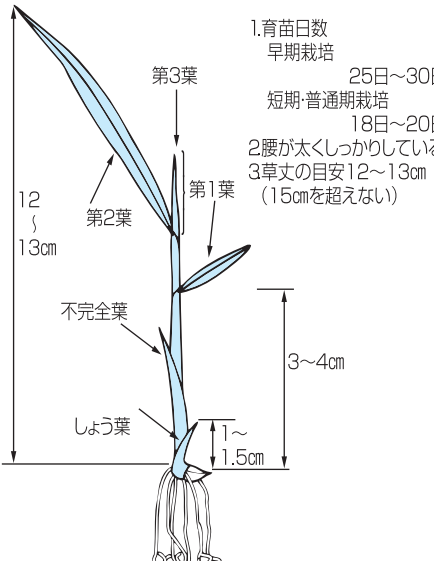
- ・緑化が終われば灌水を開始します。
- ・ムラにならないよう、置き床を均平にします。
- ・長時間の灌水は根腐れ、立枯病や藻の発生原因となるため、
異常が見られたら、直ちに落水して適切な処置をしましょう。

苗の葉齢	水深
2葉期まで	苗箱の培土表面より下
2葉期以降	苗箱の培土表面より上～第1葉の付け根まで

移植

- 1 育苗日数早期栽培25日～30日、短期・普通期栽培18日～20日で葉齢2.2～2.5葉の時に移植します。（育苗日数を延ばすと苗質が低下します。）
- 2 栽培しおりを参考に、生育初期の病害虫（いもち病、縞葉枯病やイネミズゾウムシなど）の発生を抑えるために、必ず育苗箱施用剤を散布してから移植します。

農薬の使用にあたっては、ラベルの農薬使用基準を確認して使用方法を遵守しましょう。



よい稚苗の姿(2.2～2.5葉)

(2025年2月作成)

米品質改善のため田植え誘導マップに基づいた適期移植を行いまししょう

100%種子更新をしまししょう 種子消毒で種子伝染病を防ぎまししょう